

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102186		
法人名	有限会社 エ・アロウ福富		
事業所名	有限会社 エ・アロウ福富		
所在地	岐阜市福富迎田72番地		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町村受理日	平成28年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102186-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園地帯に位置し入居者様ものどかな風景と同じくのんびり、ゆったり過ごしていただいております。居室・廊下・食堂など木にこだわった作りとなっており、浴槽は大きな檜風呂でのんびり手足のばして入浴していただいております。居室は東向きの開放的な掃き出し窓できれいな日の出や田園風景が眺められます。食は地元・国産食材にこだわり野菜を多く取り入れ、旬を大切に季節を感じられるよう手作りを心がけております。2ヵ月ごとの運営推進会議、3ヶ月ごとの家族会には多くの皆様に参加いただいております。季節ごとの外出行事、モーニング、散歩など外出の機会を増やせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者も職員も、表情は和やかで明るく、家庭的な雰囲気の中、自然体で過ごしている。代表が管理者と共に、研修会に参加して、習得した内容をいち早く職員に伝達し、質の高いサービスを提供できるよう実践している。長期入院(30年)していた利用者が、職員による自然体のケアの結果、顔をあげ、他の利用者と一緒にテレビを見るなど、落ち着いて生活ができるようになった事例がある。専門職として、質の高い介護力を身につけられるよう、職員の資格取得を支援し、経験を重ねながら、利用者に優しい事業運営に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、廊下や食堂など数箇所に掲示しており、朝の申し送り時全員で唱和している。月1回の職員会議でも運営方針、運営理念を唱和し、利用者本位の立場と尊厳の保持・1人1人に寄り添った介護を心がけている。	理念は、目立つ位置に掲示をし、朝の申し送り時や職員会議で、各項目の意味を確認し、唱和している。常に、思いやりの心で利用者へ寄り添い、その人らしい暮らしができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各ユニットごとに自治会に加入している。自治会行事(清掃活動、防災訓練、夏祭りなど)に参加している。夏祭りは、会場提供し利用者も地域の一員として参加している。地域の資源回収事業にも協力している。	地域の防災訓練「シェイクアウト訓練(一斉防災行動訓練)」に参加をしている。自治会主催の夏祭りには、会場を提供している。テント、テーブル、椅子等を準備し、屋台を出店して、地域の一員としての交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りは、恒例の自治会行事となっており毎年会場提供と模擬店を出店している。たこ焼きが好評で他にボンハゼも提供している。ご利用者も楽しみに参加し、つい食べすぎる方もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域関係者・家族会代表の参加による運営推進会議を2ヶ月ごとに開催している。事業内容・利用状況など報告し評価を受けると共に、意見交換の場を設け事業運営に反映させている。	会議では、参加者に事業所の実情や取り組みを報告し、事業所理解につなげている。地域から、利用者の敬老会への出席依頼や高齢者情報を受け、行政とは、介護保険法改正による利用料金の改訂について相談、情報交換をし、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、行政・包括センター・地位に関係者に参加してもらっている。会議以外にも、介護保険制度の情報や助言など指導を受けている。	市の担当者には、利用者の受け入れ、運営に必要な書類作成、金銭に関する困難事例などを相談し、助言を得ている。地域包括支援センターから、「地域ケア会議」の開催情報を得て、職員が交代で参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がどのような行為が身体拘束にあたるのかを理解し、また言葉による拘束もないよう言葉使いにも気をつけている。社内研修においても取り上げ拘束のない介護に取り組んでいる。	社内・外の研修会で、身体拘束について学び、拘束に当たる行為や弊害を正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。また、言葉による拘束についても、職員間で、常に意識をし、思いやりある言葉かけをするよう、努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、身体拘束と共に職員会議で取り上げ資料により社内研修を実施し、日常生活においても小さな抑制の積み重ねが身体的心理的拘束・虐待につながることを認識し、見過ごされないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修の受講により体制作りに努めるとともに、必要とする家族には権利擁護制度について説明している。ご利用者にNPO法人の身元保証支援を受けている方もおり、そこより必要に応じて資料提供を受けたり、情報交換の協力を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者・ご家族の事前面談を行い、不安や疑問など伺っている。契約時は、重要事項説明書等により説明を行い、本人等の理解・納得を得た上で契約しサービスを開始している。(改訂・解約時においても同様)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1日に利用者会議を開きご利用者より直接意見を聞くとともに、3か月ごとの家族会でご家族から意見・要望など伺い、運営に反映させている。各月の利用料請求時に行事カレンダーを添付し行事参加へのきっかけを作っている	利用者会議や家族会で、意見や要望を聴いている。利用者の食べたい物、行きたい場所などの要望が多く、速やかに、それに応えている。3か月毎の家族会は、参加者も多く、そこで出た意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第1月曜日の主任会で、職員会議の提案案件を検討、その週の木曜日に職員会議を開催、意見・提案など聞き、話し合いにより方針を決定している。親睦会も年数回行っており、その場で色々な話を聞ける機会があり、運営に反映している。	職員会議で出た、意見や提案を話し合い、検討している。職員の意見を反映し、浴室の改修と重度化に合わせた機械浴の設置が決定している。年数回行っている親睦会は、職員同士がチームケアの重要性について話し合い、より良いケアにつなげられる機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務に対する取り組みや姿勢など評価し、各自がやりがいや向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得を促している。研修については、経験や習熟度を考慮し全員が受講できるよう配慮している。職員会議の場で、研修報告を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所であるグループホームあかねと行事などで交流を図っている。県グループホーム協議会の会合や研修、行政の開催する地域ケア会議に参加し、他事業所との情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、まずご利用者・ご家族と共に面談、話を聞きホームの見学をしていただき、説明そして質問・疑問などにお答えし、ご利用者とご家族が共に納得の上、サービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談により、十分な話し合いの場を設け、質問・ご要望など聞きながら丁寧な説明に心がけ、不安や疑問の解消に努めている。どんな些細なことでも、遠慮なく話してもらえるような環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネをはじめ職員を交えてご利用者の必要としているサービスについて検討、本人と家族が何を望み何に重きを置いているのかを話し合い、それに応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、自分で出来ることは自分で行ってもらえるよう、ご利用者に配慮した見守り・声掛けを行い、家族のような信頼関係を築き理解しあえる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や各種行事に参加いただいたり、面会時にケース記録を見てもらいながら近況を報告することにより、ご家族との絆の保持に努めている。また、外出の機会を持ってもらったり、相談・要望など受けながら共に支えて行ける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の要望に応じて、なじみの場所へ気軽に行き来できるように支援している。知人や友人の面会には、気軽に再訪してもらえるよう声掛けなど行っている。	知人や友人、親戚などの訪問がある。訪問者は、居室で面会し、利用者とゆっくりと過ごしている。また、職員は、他の利用者とも会話できるような雰囲気づくりをし、次回の訪問につながるよう、声かけをしている。遠方の家族からは、こまめに電話がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間はもちろん、レクリエーションや行事などの催し物には、ご利用者が一人で部屋にいることのないように全員に声掛けし、お互いにかかわりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に今後困りごとがあれば、いつでも必要な情報の提供をさせていただき旨説明するなど、出来る限りの支援に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1日、利用者会議を開催し、ご利用者がどんな暮らしがしたいのかなど話を聞く機会を設けている。また、日常の会話の中で1人1人の思いの把握に努めるとともに、ご家族にも面会時などに意向を聞いている。	利用者から話を聞く「利用者会議」を設け、思いや意向を聴いている。意思表示が困難な人は、仕草や表情から把握するよう努め、家族からも情報を得ている。職員は、利用者一人ひとりの思いに添いながら、その人らしく、落ち着いて暮らせるよう、常に自然体で接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や、生活環境・ADLの状況など情報提供資料やご家族の話をベースに、日常の会話、コミュニケーションの中から更なる把握に努め、職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や表情などに気を配り、ご利用者の思いを汲み取るよう心がけている。朝夕の申し送り・見守り・利用者各々のケース記録などの中から職員1人1人、ADLや状態変化などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議において、数名づつのカンファレンスを行い、ケアプランに反映させている。ご利用者やご家族の意見も伺い介護計画を作成している。ご利用者の状態変化やご家族の要望に応じ臨機応変の対応にも心掛けている。	介護計画は、作成担当者及び、認知症介護実践者研修を受講した4名の職員がアシスタントとして加わり、作成している。本人と家族の意見や要望を聴き、医師、職員の意見を加えて検討し、介護計画に反映させている。	利用者の状態変化に応じた、計画の見直しでは、家族アンケートの実施などによる、家族や関係者の、さらなる意向把握の具体化に期待をしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りで職員間での情報の共有を図っている。生活の中で変化があれば、そのつど報告をし、ご利用者の小さな変化にも対応できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLに応じたグループわけを実施し、天気の良い日にはご利用者の状況に応じて、散歩に出かけたり、近所の花を見に出かけたり、買い物に同行したり、喫茶店に行くなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される敬老会に招待者は出席している。コミュニティーセンターが近くにあり、地域の文化祭などに出かけている。ホームとしてもコミュニティーセンターを、年数回利用させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所に伴う主治医の変更は働きかけていない。施設のかかりつけ医(協力医)とは月2回の往診を確保するとともに、突発的な通院は管理者・ケアマネが同行受診している。他に週1回の協力歯科医院の往診を確保すると共に必要に応じ口腔指導等受けている	利用者それぞれが、今までのかかりつけ医を継続し、家族対応で受診している。場合によっては、職員が同行し、希望者は、協力医の往診も受けている。通院時には、経過記録の提示をし、結果を共有している。急変時は、協力医と緊密に連携し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携業務委託契約により、週2回の訪問看護を受けている。訪問看護師と情報交換を密にし、ご利用者の健康状態の把握、病気の早期発見と重度化防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と密に情報交換を行い、早期に退院できるように努めるとともに、必要に応じ病院の医療関係者とカンファレンスを実施している。ご利用者やご家族と面会を多く持ち、連絡を取り合っ入退院時の状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会でのおいじたく(選択肢としての特養や老健)の説明など、事業所で出来ることの限界を家族に説明している。また、家族が施設内での看取りを希望されれば医療連携(主治医・訪問看護ステーション・施設職員)による支援体制を構築している。	重度化や終末期に向けた指針に基づき、事業所でできる支援の限界を、家族や家族会で説明をしている。本人や家族の希望、及び、協力医と訪問看護ステーション、職員の連携が整えば、看取り支援を行える体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生に備え、マニュアルや緊急連絡網をホーム内に掲示している。職員会議でも社内研修として、これらを職員全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度に続き、災害時介護技術研修を受講している。年2回の避難訓練をご利用者と全職員で実施している。1回は地元消防署による助言・指導を受け実施、あと1回は夜間想定で行っている。また、地域の防災訓練にも参加している。	災害訓練は、消防署の指導のもとで実施している。職員は、災害時介護技術研修を受講し、対応力を養っている。地域のシェイクアウト訓練(一斉防災行動訓練)に、継続して参加している。防火シャッターを備え、備蓄の確保がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室仕様でプライバシーは確保できている。トイレや入浴の介助時、扉・カーテンを閉めると共に、ひごりより声掛けの仕方など言葉使いにも意識し、羞恥心やプライドを損ねないよう配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を損ねない声かけと対応を行っている。親しい仲であっても、常に傾聴に心がけ、言葉遣いに配慮しながら、笑顔で穏やかに接するよう、職員間で確認し合い、支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、ご利用者の言葉や表情を確認しながら、本人の思いや希望を引き出せるようさりげなく声掛けしている。お茶や飲み物の選択や散歩や、同行外出など自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共に過ごせる時間を大切に、1人1人のペースに合わせた暮らしが出来るよう支援している。ご利用者が居室で過ごされる時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に来ていただき、カットしてもらっている。清潔で着やすくご利用者(ご家族様)の好みの衣類を着用していただくよう心掛けています。また、入浴後の衛生チェック、髭剃り等の声掛け・介助を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元・国産食材にこだわり、野菜を多用し季節を感じられるよう手作りをモットーにしている。職員も同じものを一緒にとり、誕生会や利用者会議で好みのものを聞き、ご利用者のし好に配慮している。自立度にあわせて下膳もお願いしている。	利用者の好みを聴き、旬の食材を活かしながら、季節感のある家庭的な食事を提供している。利用者は、職員と一緒に食し、美味しさと、楽しさを共有している。利用者も下膳やテーブル拭きなど、出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に応じた食事形態にし、量・質を考えカロリーにも配慮している。水分不足にならないようこまめに水分を取ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じ、声掛けや義歯清掃など口腔ケアを実施、また、定期的に歯科医の訪問診療により義歯調整や指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表によりご利用者個々の排泄間隔の把握に努め、トイレ誘導や声掛けを行い、排せつの失敗が少なくなるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、こまめな声かけとトイレ誘導で失敗を少なくし、排泄の自立につなげている。夜間は、センサーマットを利用する人もあり、素早く対応をして、排泄用品の削減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人は、主治医より便秘薬の処方を受け服用している。食事でも、食物繊維を多くとってもらえるよう普段より野菜を多く取り入れている。おやつにヨーグルトを出したりしている。散歩など身体を動かし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。自立度により入浴を楽しめるよう、見守り・声掛けのみ、一部介助など、状態に合わせた入浴を行っている。また、入浴日以外でも状態に応じ、シャワー浴・清拭など行っている。	重度化した利用者も、安心してゆったりと、個室浴を楽しめるよう、複数で介助をしている。利用者のその日の気分や状態に合わせ、シャワー浴、清拭など、柔軟に対応をしている。今年中に、機械浴の設置と浴室のリフォームが完了予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応であり、自由に自分らしく気兼ねなく過ごしてもらっている。起床・就寝・午睡など本人様のペースを尊重し生活していただいている。天気の良い日には布団干し、週1回のシーツ交換を実施し気持ちよく休んでもらえるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の説明書を熟読している。服薬管理時は、1人1人仕分けをして間違いのないよう2人以上で確認し、服薬後は個別記録へ記入しチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活力を活かした家事のお手伝いや、趣味や経験に基づいたご利用者にあった出来ることを支援している。外出行事を楽しんだり、音楽療法士、落語家等の来訪により生活にメリハリを持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ご利用者の状態に応じて散歩に出かけ、そのおりに、近所の方と挨拶したりお庭の花をいただいたり交流がある。年数回の外出行事(全員)や、喫茶店のモーニングサービスへも時々出かけている。	車椅子の人も、周辺の散歩や、ベランダでの外気浴を楽しんでいる。家族の協力を得て、年に数回、利用者全員での外出を実施をしている。また、面会に訪れた家族と一緒に、自宅や外食などへも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により日用品購入資金を施設預り金として管理している。ご家族、ご利用者共に病気によるトラブルを懸念され、金銭所持を希望される方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者やご家族の希望があれば、電話や手紙の取次ぎなど支援している。息子さんに手紙を書かれる方があり投函の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・壁・床・浴槽などふんだんに木材を使用し、木の持つ温かみを感じるつくりとなっている。天気の良い日には、ベランダから朝日や田園風景が眺められ季節を感じ取れる。廊下には、季節の花やご利用者と職員が作り上げた作品や、写真など展示している。	共用の間は、木材をふんだんに取り入れ、温もりがあり、職員の目が行き届きやすい造りである。様々な形のテーブルを配置し、カウンターで職員と向き合って座る利用者もある。廊下や壁には、拡大した行事の写真や利用者の手づくり作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士が、自由に過ごせる共有のスペースを確保、テレビ・カラオケなどを設置している。冬はコタツやホットカーペットを設置し暖かく過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室和室仕様で掃きだし窓になっている。開放的で見晴らしもよく季節を感じ取れるつくりになっている。今までご利用者が使用してきた衣類・寝具・テレビ・家具・インテリアなどを持ち込み、心地よく過ごしてもらえるよう心掛けている。	居室には、馴染みの筆筒や衣装かけ、衣装ケースなどを持ち込み、使いやすく配置している。筆筒の上には、手づくり作品や季節の花、家族の写真などを飾っている。窓からの眺めも良く、温湿度計を備えた居心地よい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状態に合わせた居室内の物品配置とし安全に配慮している。居室入り口には、部屋番号と表札をつけたり、認知度に合わせて目印になるような物をつけたりして、間違わないよう配慮している。		